

令和元年度政策討論会 第二分科会（第3回）要点記録

日時	令和元年 9月20日（火） 10:00～11:00				
場所	第1委員会室				
テーマ	交通弱者への対応について				
出席者	○堂本啓祐	反甫旭	南加代子	岩崎雅秋	河合馨
	◎岡林憲二	雪本清浩	今口千代子		
	（議席番号順）				

◎座長 ○副座長

（座長）

本日は、交通弱者への対応について本市の現状及び課題抽出を各委員よりお聞きしたい。

（委員）

今回のテーマを議論するうえで、交通弱者の定義づけを明確にしておかないと、議論が広がりすぎてまとめるのが困難である。

高齢者ドライバーによる事故が多発している。自身で運転しなくとも、安全・安心に移動できる交通手段の整備が早急に必要である。

現状で、交通弱者の需要がどれ位あるのか把握できていない。対策を講じる上で、アンケート等の調査を実施すべきである。

交通弱者に対応したシステムを整備しようとしても、現状では、まだまだ利用者負担だけでは財源を賄えない。そのために、市街地整備課に加え福祉政策課等も参加し、資金・運営のサポートが必要である。

（委員）

○交通弱者とは、病院や買い物へ行く交通手段のない高齢者や障がい者を指すと思うが、特にバス停までも行くのにままならない方も含むと考える。

そういう意味ではドア・ツー・ドアのタクシーチケットの補助を交通弱者（年齢やその世帯に車が無い等の条件をつけて）配布してはどうかと思う。障がい者の方は、乗車

基本料金を助成する助成券を既に配布しているので、それ以外の方を対象に助成してはと考える。

○免許証の返納については、将来車の自動運転も考えて、今は車の維持費がかかるので車を廃車にして免許証を残しておいて、自動運転の時に使えるようにしたいという方もいるが、現実に即していないと考える。

(委員)

バスを運行することだけが対応ではない。交通弱者のニーズを受け止めて対策を考えていかなければならない。これからは、免許返納率が高まることが予想されるが、行政としてそうなったときの対応を考えておかなければならない。

(委員)

○交通弱者の対応については、市民、行政、事業者と進めていかねばならない。

まず、市民・地域が個々的に声を上げている状況では公共交通として進まないのが現状であり、交通手段が必要であるという声を吸い上げてまとめていかねばならないと考えるが、今現在一向に進まないのが課題である。

○交通弱者の対応は、生活する中で必要な事に対し出来ない場合に支援すること、例えば買い物なら事業者が地域に配車し対応する地域も出てくる。また、病院への通院もその病院専用バスで配車するところもあり、将来的には訪問医療も増加していくであろう。こう考えていくと必要な対応については、地域資源を生かし各事業者に協力してもらえれば予算の面からも負担は少ない。

○交通弱者とは移動手段に支障をきたす人、最終的に提言していくには必要な手段を市民・行政・事業者と連携する仕組みづくりが課題である。

(委員)

近隣市の状況を伺った。泉南市は、福祉バスとして出発、100円で誰でも乗車できる。公共施設を回ることを基本としていたが、今では買い物の利便性の要求が強まり、泉南イオンまで運航している。

他、忠岡町、泉大津市、阪南市などの状況を聞いたが、いずれも福祉バスとして出発している。したがって岸和田も福祉的立場から考える必要があると思う。

貝塚市の資料をいただいたが、「は一もに一ばす」が「心身障害者福祉年金代替の事業補助金」を利用している事も参考になる。

(委員)

- ① 交通弱者等の市民が、どういった思いや要望を持っているのか、定期的にアンケートを取る必要がある。
- ② 今後は、隣接都市と一緒にあって取り組む方策を考えていく必要がある。

- ③ 今後、自動運転の車やバスが出てくると思うので、それらについても考えていく必要がある。

(委員)

議論の進め方として、高齢者・身体障がい者対策と交通空白地帯対策とに分けて議論するほうがいいのではないかと。路線バスの空白地帯は現状として手つかずになっている。

(座長)

次回については、他市の先進事例調査を行うので、委員各位にはご準備をお願いします。

[配布資料]

1. 岸和田市年度別自動車登録台数表
2. 高齢者の将来人口推計表（岸和田市）
世代別人口推移（岸和田市）
3. 「は一もに一ばす」運行の変遷
4. 平成 29 年度政策討論会提言書
「公共交通のあり方について」